

学長のコラム

現実味を帯びてきた「9月入学」～ 論点整理

全国に発出されていた緊急事態宣言は、5月14日に熊本県を含む39県で解除された。残る8都道府県の一部についても期限の5月31日を待たずに解除が検討されている（5月20日現在）。この間、新型コロナウイルスの感染防止のために学校閉鎖が続き、学習の遅れや地域・教育環境による教育格差が問題化しており、その解決策の一つとして「9月入学」案が急浮上している。全国知事会からは、賛否両論がある中で、「9月入学」についての議論を求める緊急提言がなされた。政府でも本格的な検討が進められており、この機会に論点を整理しておきたい（表参照）。

導入派の基本的な意見は「9月入学」によって学習の遅れや生徒間の学習進捗度の格差が是正され、尚且つ、欧米で主流となっている秋入学に時期を合わせることで、海外留学や留学生受入れなどの教育の国際化が促進されるというものである。一方で「9月入学」は日本の社会全体に大きな影響を及ぼす改革であり、拙速な導入は避けるべきとの慎重論も根強い。日本教育学会の声明（5月11日）では、仮に来年9月に小学校入学を遅らせると義務教育開始は一番高い年齢で7歳5ヶ月と世界でも異例の高年齢となること、「9月入学」に伴って生じる4月から8月までの5ヶ月間の学費分の空白は私立大学だけでも1兆円近くになること、卒業時期が8(7)月にずれると高校生や大学生らの就職に支障が生じるなどの問題点が挙げられている。また、来年9月に入学を実施すると、新小学1年生の人数は、2014年4月2日～2015年9月1日生まれの17ヶ月間の140万人程度で例年の約1.4倍となり、この学年は将来的に大学受験や就職で競争が激化することが予想される。一時的に教員や設備が不足することも明らかだ。その解決策の一つは、現行通りに2014年4月2日～2015年4月1日生まれの子供たちを9月に入学させる案である。ただし、この案では義務教育就学年齢の高齢化（最高7歳5ヶ月）が恒常化してしまう。一方で、5ヶ月の増加分を5年間で賄うという解決策も検討されている。例えば、来年9月には2014年4月2日から2015年5月1日までの13ヶ月間に生まれた子どもを入学させ、これを1ヶ月ずつずらして5年間続け、最終的に2026年9月には9月2日～翌年の9月1日の1年間に生まれた子どもを新入学させるというものである。

大学入試に目を向けると、「9月入学」に合わせて夏に入試を実施する場合、台風や熱中症の心配があり、来年に限ってはオリンピック・パラリンピックと日程が重なることも心配要因である。また、大学卒業生については9月就職となり、社会体制を大きく変えなければならない。これについては、現在の大学在籍者は3月卒業を維持して、2021年9月入学の大学生から8(7)月卒業とすれば、その後の4年間に企業の秋採用を徐々に整備することが可能かも知れない。

この様に多くの課題を抱えた「9月入学制度」であるが、政治判断に基づいて導入される可能性も否定できない。議論の推移をしっかりと注視していきたい。

論点整理 ～ 2021年9月入学制度の課題と解決案の例

「9月入学制度」の課題	解決案の例
制度設計によっては2021年度の小学校入学人数が約1.4倍となり、教員や教育設備が不足する。 将来的に、当該学年に比べて大学受験や就職の競争が激化する。 義務教育就学年齢が高齢化する。	2021年度からの5年間について、それぞれ13カ月に生まれた子供たちを入学させる。 上記の取組みで、最終的に現行と同様の6歳児の小学校入学制度に落ち着く。
大学入試が東京オリンピック・パラリンピックや台風シーズンと重なる。 大学（高校）卒業と企業の採用時期（4月）にズレが生じる。	試験日の前倒しや複数化を図る。試験会場の分散や地方開催によって長距離移動を避ける。ネット受験の導入など。 企業の秋採用への対応が必要。 現在の大学在籍生は3月卒業を維持して、2021年9月入学者が卒業する2025年8月までに企業の秋採用を定着させる。
日本社会の会計年度（4月～翌年3月）と学年歴にズレが生じる。 桜の時期に入学という日本の伝統文化に反する。	法改正により対応可能。 国民の意識改革が必要。
学費納入が5カ月遅れることにより私立学校の経営が悪化する。	国による十分な支援が必要。
小中高大の入学や進級が5カ月遅れることにより家計の負担が増加する。	国による十分な支援が必要。

5月の主な行事予定（※5/25時点）

5/27(水)	理事会・評議員会	6/1(月)	対面授業一部再開
---------	----------	--------	----------

本学の遠隔授業への取り組み

本学では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により新学期の開始が遅れ、4月27日（月）から遠隔授業での開始となった。遠隔授業は、①同時双方向型（テレビ会議方式等）、②オンデマンド型（インターネット配信方式等）の2種類がある。本学では学生の受講環境を考慮し、学生に大きな負担をかけることなく公平に使用できるツールとして、従来から導入しているWebポータルシステムActive Academy Advance（AAA）を用いたオンデマンド型による授業を基本として開始した。遠隔授業は教員、学生双方にとって初めての経験であり、教員に対しては遠隔授業用のAAA操作説明書を作成し説明会を行うなどして臨み、学生はAAAを通じて、遠隔授業に関する連絡、遠隔授業用のAAA操作説明書（学生用）、授業予定表などを受け取り受講開始となった。これまでのところ大きなトラブル等は報告されておらず順調に進行している。すでに前期セメスターの授業は、オンデマンド型で行うことが決定しており、当面の課題は、AAAの機能の整備・拡充であり学生の学修に対する細やかな支援である。また、今回の新型コロナウイルス感染の収束を見据え、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用した授業方法の選択肢を増やすことも今後の課題である。（文責：教務委員長・教授 多久島 寛孝）

就職・実習支援課の取り組みについて

新年度を迎え、就職活動が本格化している中、新型コロナウイルスが学生たちの就職活動に大きな影響を及ぼしています。合同就職説明会をはじめ、インターンシップや病院見学が次々と中止になり、それに代わって動画による説明会やWeb面接など、これまでの活動形態とは大きく異なり、正に「異例の就職活動」となっています。

これらの現状に対応するため、就職・実習支援課では、Zoomによる「Web面接練習」、履歴書・小論文添削や進路相談については「メール支援」を実施しています。4月は約300件の学生対応をいたしました。慣れないタブレット端末の使い方や四苦八苦したり、直接話すことができないため上手く思いを伝えられなかったりなど、頭を抱えることも数多くありました。しかし、直接会えないからこそ、画面越しの声掛けやメール返信時の文字の使い方などに配慮しながらこれまで以上にコミュニケーションを密にして、出来る範囲で最高の就職支援をしたいと思っています。（文責：就職・実習支援課）



図書館の遠隔授業及び研究支援 「電子リソース利用サービス」と「宅配貸出・文献複写サービス」実施中！

図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ご自宅での学習や研究を余儀なくされている皆さんを支援するため、電子ブック、電子ジャーナル、データベースの期間限定利用サービスを行っています。医療系の電子ブックや動画、学術論文、新聞記事など、利用できます。各リソースによりアクセス方法が異なりますので、アクティブアカデミーWeb フォルダの図書館をご覧ください。

また、図書館蔵書の宅配貸出サービスも実施中です。蔵書検索OPACで検索し、マイライブラリーからお申し込みください。返却は、対面授業開始時で結構です。また、文献複写依頼も同じくマイライブラリーからお申し込み可能です。(このサービスは学部4年生、別科生を対象)。いずれもアクティブアカデミーWeb フォルダの図書館をご覧ください。

ご自宅での学習や研究にこれらのサービスを是非ご活用ください。(文責：図書館)

慶賓館テイクアウトのお弁当とメニューについて

新レストラン運営会社慶賓館ではテイクアウトのお弁当を5月18日(月)からは10:00～19:00まで、土日祝日休みなしで取り扱っております。(※通常営業に戻った際には変更することもあります。)メニューは20種類ほど扱っており、担当の木村さんからは「値段とボリュームには自信があります！」とのコメントもいただいております。電話予約はいつでも受け付けており、受け渡しは「モンマルト」で行っております。メニューも triton 内 (学内共通> 共通情報> ★慶賓館) に入れておりますので、ご確認ください。



(連絡先) 慶賓館：096-353-3340 モンマルト：096-325-0788

担当者：木村さん

(文責：慶賓館)

フードパル熊本の新型コロナウイルス対応

新型コロナウイルスに罹患された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

また、医療従事者・行政当局をはじめとする、感染拡大抑止にご尽力されている皆様に、深く感謝申し上げます。

フードパル熊本では、熊本市と協議し、3月以降のイベントならびフリーマーケットを、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止しております。

また、緊急事態宣言を受け、団地内の店舗では、3密(密閉、密集、密接)を避けるため、時短営業・ビニールカーテン設置・マスク着用・手袋着用・間隔シール表示・アルコール設置・窓の開放などの対策を実施し、感染予防に取り組んでおります。

なお、当団地内の市有施設(熊本市食品交流会館)では、4月22日～5月20日までの期間、休業要請に伴い利用の停止となっております。

フードパル熊本では、一日も早い新型コロナウイルスの終息を心から願いつつ、一層の安全対策を行い、皆様に安心して来園できるように努力してまいります。(文責：(株)フードパル熊本)

私の秘話ヒストリー

今回は医学検査学科の西村 和高 講師に投稿していただきました。

10年ほど前、私はITを生業とする傍ら熊本市南区で小さな飲食店を営んでいました。十席ほどの小さな店は、昼はカフェ、夜はバーとして地域のみなさんに多く利用していただきました。私は料理人ではありませんので営業は人に頼り、店の奥にスペースを作ってIT業務をしていました。

ある日、下校中の小学2、3年くらいの児童達が店にやってきてあっさりインターネットを始めました。「グーグルマップ」です。手慣れたようすで友だちとわいわいおしゃべりしながら目的の情報に簡単にたどり着く様子を見て当時強い衝撃を受けたのを覚えています。

最近では1年前には思いもつかなかった生活スタイルにいつのまにか変わっているのに驚かされます。ビデオ配信、音楽配信、お届けサービス、キャッシュレス等ほとんどがITサービスです。

10年前店を訪れた児童は今年大学生、ITを取り巻く環境も、使う側のスキルもどんどん変化していくのを感じます。私もITを専門にするものとして変化を続けなければと思う毎日です。